

1. 授業の基本情報・概要

対象授業の科目区分：専門教育科目 特別支援教育

科目名：知的障害児の教育課程及び指導法

担当教員名：吉松 靖文

登録学生数：31名

知的障害児教育の基本理念を理解し、学習指導要領や代表的な指導法について学習する授業である。授業の目的は以下の通りである。

- 知的障害児教育がどのような過程を経て、現在の教育が確立したか、その変容過程を理解すると共に今後のあり方を展望する。
- 知的障害児教育の教師が身につけなければならない指導法、学級経営法の基本について理解する。

授業の到達目標は以下の通りである。

1. 知的障害児教育の教育課程、教育目標の内容が理解できる。
2. 知的障害児教育の歴史を理解し、今後の展望を切り開く方向性を論述できる。
3. 知的障害児（含む自閉症）の効果的な指導法を体得できる

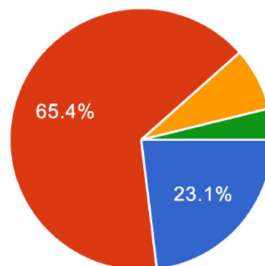
2. 授業評価・授業研究の内容

最終試験後に授業評価アンケートを実施した。以下の5項目について7件法による回答とそれぞれの回答の理由の自由記述を求めた。

1. 授業に積極的に取り組むことができましたか(積極度)
2. 授業の内容はあなたの満足のいくものでしたか(満足度)
3. 授業の内容はあなたの役に立ちましたか(有用度)
4. あなたの授業の理解度はどれくらいですか(理解度)
5. 教員として働くことにとって意味のある授業でしたか(教員としての意義)

回答者数 26名。回収率:83.9%。

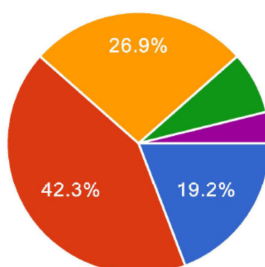
1. 積極度。



1. 全くそう思う 6 23.1%
2. そう思う 17 65.4%
3. ややそう思う 2 7.7%
4. どちらともいえない 1 3.8%
5. ややそう思わない 0 0%
6. そう思わない 0 0%
7. 全くそう思わない 0 0%

以上の通り、1名除いて全員が積極的に取り組むことができたという回答であった。自由記述では、「他のグループの発表に関しても、後日参考文献を調べたから。」「グループで決められたテーマを自分たちで考えていくことは、とてもよかったですと思います。また、グループで授業中に出された質問に対して答えたことも、いろいろな意見をよかったですと思います。」「発表など時間をかけて準備しました。」「授業の発表準備などに課題意識を持って取り組んだ。」など、授業外での学習にも積極的に取り組んだことがうかがえる記述がほとんどであった。一方、「内容に興味を持てなかった」「自分の意思が弱く少し欠席してしまった。」という否定的な内容の記述も見られた。すべての学生が積極的に学ぶためにはさらなる授業改善が必要である。

2. 満足度

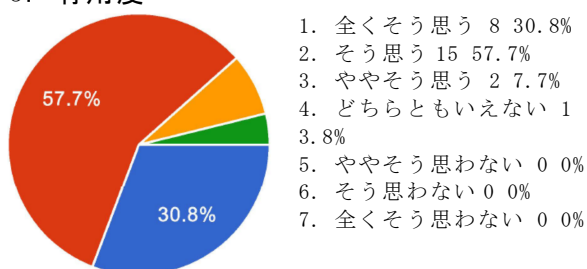


1. 全くそう思う 5 19.2%
2. そう思う 11 42.3%
3. ややそう思う 7 26.9%
4. どちらともいえない 2 7.7%
5. ややそう思わない 1 3.8%
6. そう思わない 0 0%
7. 全くそう思わない 0 0%

以上の通り、否定的な評価が1名、どちらともいえないが2名あったが、それ以外は肯定的な評価であった。自由記述では「特別支援学校の教育課程がどのようなものかわかった。」「実例を聞きながら知的障害児の教育に

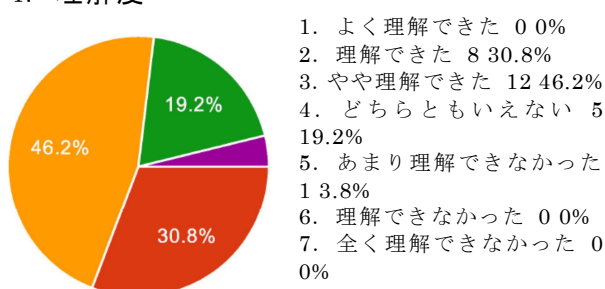
ついて知ることが出来た」「基本的なことについて学ぶと共に、子どもとの関わり方について深く考えさせられたから。」などが書かれていた。一方、「各班の発表はいいと思うが早すぎて読めなかったり理解する間も無く終わることがあった。」「グループによって、要点が分かりにくいものがあった。」といった課題を指摘する記述も見られた。グループでの調べ学習の在り方や授業の進め方について示唆された問題点については改善が必要である。

3. 有用度



以上の通り、1名を除いて全員が役に立ったと回答した。自由記述では、「知的障害のある子どもへの指導要領は、特殊な部分も多いので、しっかり整理することができたから。」「教師の子どもに対する接し方について知ることができたから。」などが書かれていた。一方、「実践的な内容ももう少し深めたかった」という記述が見られ、より実践的な内容を取り入れる工夫が必要と思われた。

4. 理解度



1名が否定的、5名が中立的な評価であった。自由記述では肯定的な評価をしたものの中にも「テストが思うようにできなかった。」というようなテストが難しかったことに関するものが多くみられた。テストの在り方について検討する必要があると思われた。

また、否定的な評価をしたものは「結局何を学べたかよくわからない」と書いており、この点も各授業の目標設定や総括・振り返り

の在り方に工夫・改善が必要かもしれない。

5. 教員としての意義



以上の通り、1名を除いて全員が教員として働くことにとって意味のある授業であると評価した。自由記述では「教育現場で学習を進めていく上で、自立活動は、どのようなものなのか、生活単元学習はなど、知っておくものはとても重要」など特別支援学校の教員として働く上で必要な知識や教員としての態度に言及するものが多くみられた。一方で、どちらともいえないと回答したものの自由記述は「自信が無くなった人も多いと思う」と書いており、テストが難しかったことに言及していると思われる内容であった。

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

愛媛県の特別支援教育や特別支援学校に関する資料を授業で使用した。また、調べ学習においては、附属特別支援学校での教育実習等の内容や受講生に含まれていた現職派遣の大学院生の知識・経験を授業に反映させるようにした。

4. 総括

授業評価アンケートの結果に見られるように受講者の評価のほとんどは肯定的なものであった。一方で、授業への積極度、満足度、有用度、教員としての意義に対し、理解度の低さが明らかとなった。この点、毎回の授業の目標設定や振り返り、テスト等の評価の在り方を今回の授業評価アンケートの結果に基づき工夫・改善を行いたい。地域社会を核とした教育と研究とのつながりについては附属特別支援学校以外の学校が大学近隣にはないため受講生が直接行って調べることができない状況にある。そのような制約下にあって地域の特別支援教育・知的障害教育に関する現状や課題を受講生が知るためには附属特別支援学校とのさらなる連携が重要と思われる。